

<報告>

2021年度音楽教育研究ゼミの活動 ——日本におけるストリートピアノの広がりや役割——

The Achievement of the 2021 Music Education Research Seminar: The Influence of Street Pianos in Japan

鯨井 正子

KUJIRAI Masako

2021年度音楽教育研究ゼミの3年生は、日本におけるストリートピアノの広がりや役割を検討した。パーミンガムが発祥とされるストリートピアノは、日本でも2018年頃から増え始め、背景には、Play Me, I'm Yours や Love Piano プロジェクトなどの事業、地域の音楽産業との関わりや災害を乗り越えるためなど、様々なきっかけがみられた。さらに、ストリートピアノの演奏を動画で発信する弾き手も登場し、聴き手は現地に向かずとも音楽を楽しむことができるようになった。結果、ストリートピアノとは、コミュニケーションを育み、ピアノや音楽を身近で日常的な存在にする役割を持つという見解を導き、コロナ禍以降のこのピアノへの目配りを今後の課題に挙げ、研究報告文を仕上げた。本稿では、報告文の一部を抜粋・推敲して紹介するとともに、学生の取り組みへの気付きと今後の希望として、報告文のバランス、音楽の文章化、インターネットの多用、研究テーマの継続にも言及した。

キーワード：音楽教育研究ゼミ、ストリートピアノ、日本のストリートピアノ

はじめに

音楽教育研究ゼミの3年生は、4年生での卒業研究を見据え、学生共通の題材と目的のもとに研究に必要な一連の作業を経験し、報告文の作成やゼミ以外での発表も視野に活動している。2021年度受講の5名は、日本でもここ数年のうちに急速に知られるようになったと思われるストリートピアノを取り上げ、このピアノの広がりを把握しながら役割を考えることを目的に調査と分析を行い、『日本におけるストリートピアノの広がりや役割』と題した報告文を作った。本稿では、報告文の中から研究の目的、章立て、結果と考察を抜粋・推敲して紹介し、おわりに学生の研究を通して気付いた点と希望を述べる。なお、本文で触れる【資料1】から【資料5】は文末に置く。

研究の概要

1. 目的

ストリートピアノは、公共施設や商店街、駅などに置かれ、誰もが気軽に弾くことのできるピアノである。イギリスのパーミンガムが発祥とも言われ、その後、世界に広がっていった。日本で初めて設置されたのは2011年の鹿児島中央駅一番街商店街だが、ここ数年のうちに全国的な広がりをみせていることから、ストリートピアノを見たり聴いたり、さらには弾いた人も増えているだろう。

メディアも、このピアノの拡大を伝え、支えている。例えばNHKテレビ『駅ピアノ・空港ピアノ・街角ピアノ』は、2017年11月の放送開始以来、世界の駅、空港、街角に置かれたピアノに定点カメラを据え、弾く人や聴く人を見つめ続けている。雑誌では、音楽雑誌『月刊ピアノ』が2018年3月号からストリートピアノの連載を開始し、一般誌『サンデー毎日』も2019年11月24日号にて「街角のピアノマンたち」と題した記事を載せ、2つの雑誌ともストリートピアノの広がりや動向を伝えている。また、2018年を節目に日本でのストリートピアノが発展した

と捉えた一個人が、情報の整理と共有を目的に web サイト『だれでもピアノ』を開設している。一方、ニコニコ動画に始まり SNS から YouTube へとピアノを演奏する動画がアップロードされるようになり、ストリートピアノの動画も加わっていった。このことから、「YouTube Pianist」(「YouTube Pianist」「YouTube Pianist 特集第2弾!」、『ショパン』No.441, 448) が弾くストリートピアノがネットを通して拡散され、現地に出向かずともストリートピアノを聴くことができるようになった。

このように様々な形で周知されていくストリートピアノだが、より調べようとする、インターネットの第2ワードには騒音などの苦情や弾く人自身の欲求を満たすだけというネガティブな発想を与える言葉も目にする。

ストリートピアノにはポジティブな面はないと言えるのか。このピアノが与える役割は何だろうか。

そこで、本研究は日本のストリートピアノに焦点を当て、2021年時点での広がりを確認しながら、このピアノの役割を考察することを目的とした。

2. 章立て

はじめに

第1章 Play Me, I'm Yours と Love Piano プロジェクト——ストリートピアノを広めた二つの事業——

第1節 Play Me, I'm Yours について

第2節 Love Piano プロジェクトから考えるストリートピアノの広まり

第2章 YouTube ピアニストと聴き手が叶えるストリートピアノ

第1節 弾き手の考えるストリートピアノ

第2節 聴き手のストリートピアノに対する思い

第3章 拡大する日本のストリートピアノ

第1節 ストリートピアノの現在

図・日本のストリートピアノの分布図

表・日本におけるストリートピアノ (2021年6月調べ)

第2節 浜松におけるストリートピアノの役割 ——ヤマハの取り組みから考える——

1. 浜松 SA のヤマハピアノを弾く人々—— NHK テレビ『駅ピアノ・空港ピアノ・街角ピアノ』から「街角ピアノ浜松」をもとに——

2. 浜松に根ざすヤマハ

第3節 神戸で育まれている音楽——音楽事業、ジャズ、震災を通して——

1. 神戸の音楽事業

2. 神戸とジャズ

3. 震災を通して見えてくる音楽との関わり

おわりに

付属資料 YouTube に投稿されているストリートピアノの動画へのコメント

3. 結果と考察

第1章では、本研究がストリートピアノの広まるきっかけと捉えた Play Me, I'm Yours とヤマハによる Love Piano プロジェクトの二つの事業について述べた。

Play Me, I'm Yours は、2008年にイギリスで始まったアート作品として、人々が期間内に自由に演奏できるピアノを世界の各所に創った。背景には、ピアノを通して人と人との間にある見えない壁を取り払い、繋がるきっかけを作りたいという Play Me, I'm Yours の創始者ルーク・ジェラムの願いが込められ、その結果、スト

リートピアノが芸術を日常や公共のものにしたように思われた。

一方、2017年秋からヤマハが始めた Love Piano プロジェクトは、ピアノの楽しさや演奏の喜びを知ってもらおうと駅や空港に誰もが演奏できるピアノを期間限定で設置した事業である。とりわけ、ピアノの移設とカラフルなペイントがピアノを身近な存在にさせ、綺麗な見た目は「インスタ映え」を招き、SNS によるストリートピアノの広まりも促した。ヤマハのこの取り組みは、全国的にストリートピアノが広まった2018年とも重なっていた。

第2章ではストリートピアノの YouTube とそこで弾くピアニストに注目し、演奏の動画と彼らの言葉を資料に、弾き手と聴き手の両方からこのピアノに対する思いを考察した。

弾き手には、かていん（角野隼斗）、よみい、ハラミちゃんの3人を対象に、彼らに関わる web サイトやネットの記事からそれぞれの発言を拾い集めた。かていんは当初、演奏より聴き手の反応に重きが置かれる YouTube でのストリートピアノの風潮を受け入れ難かった。しかし、2019年12月、都庁の「おもいでピアノ」を演奏した時に見た光景がきっかけとなり、ストリートピアノの置かれた空間は、誰もが平等に演奏し、聴く、開かれた空間であるという認識が変わった。同時に、かていんの発言からは YouTube のルールやマナーを守りながら演奏を続けようとする姿勢も感じられ、彼は今、ストリートピアノを「大好き」と明言し、ブームに終わらない長続きを願っている。よみいは、ストリートピアノの面白さはあらゆる年代の人が思い思いに演奏できることにあり、他にない空間だと述べている。ハラミちゃんは、ピアノそのものが身近であるようにと自然体を心掛けてストリートピアノを演奏しており、今後はさらにピアノの魅力をたくさんの人に伝えていきたいと言う。

聴き手の思いの考察には、上の3人にけいちゃんと菊池亮太を加え、彼らが弾くストリートピアノの YouTube 動画に投稿された聴き手のコメントに注目した。資料には、1人のピアニストに対しできるだけ最新かつ10万回以上再生された動画を3つずつ取り上げ（連弾も含む）、コメントはそれぞれの動画から20件ずつ抽出して分析、取り上げたコメント全体は付属資料として提示した。その一部を【資料1】に挙げる。

結果、資料に選んだ動画からは弾き手がジャンルを問わずにいろいろな曲を選んでいることがわかり、その演奏を親子や家族で聴いている様子が映し出されていた。コメント欄には動画を通して演奏や曲を楽しんでいるという旨の声が多く寄せられており、子どもたちから高齢者まで、ピアノが置いてある地域に限らない国内外のたくさんの聴き手の存在も明らかとなった。そして、動画投稿者にコメント削除権限があるため否定的な意見が全くないとは言えないが、聴き手がストリートピアノを肯定的に受け入れている様子も感じられた。このことから、ストリートピアノは知っている曲にも知らない曲にも出会える機会であり、世代を超え、また地域を限定することなく、このピアノが自由な文化を提供していると考えられた。

第3章ではまず、『月刊ピアノ』が2018年3月号から始めたストリートピアノの連載、『サンデー毎日』2019年11月24日号の「街角のピアノマンたち」、web サイト『だれでもピアノ』の3つの資料を使い、研究を始めた2021年6月段階で把握できた日本のストリートピアノについて、設置場所を日本地図に書き込んだ分布図と、都道府県順にピアノの種類や設置の理由などを一覧にした表を作った。結果、2018年以降の設置が多いことが明らかになったほか、空間演出、町おこしや交流の場への期待、および震災を機にピアノを置くようになったケースなどがあるとわかった。文末に【資料2】図・日本のストリートピアノの分布図と【資料3】表・日本におけるストリートピアノ（2021年6月調べ）を示す。

次に、ピアノの設置場所を調べる中で市内での設置が多いとわかった浜松市と神戸市に絞り、地域と音楽の関わりを辿った。

浜松市の調査からは、地域に音楽文化が溶け込み、音楽の街と呼ばれていく過程がみられた。ここで言う音楽文化には、楽器を売り込むためではなく人々に音楽の楽しさを知ってもらおうというヤマハの企業理念が含まれ、地域を支える音楽産業の存在がピアノを身近にさせたと考えられた。なお、ゼミではNHK テレビ『駅ピアノ

ノ・空港ピアノ・街角ピアノ』から浜松市内の高速道路SA(サービスエリア)に置かれたピアノを見守った回「街角ピアノ浜松」を鑑賞しており、市と音楽産業との関わりを認識することができたほか、旅の途中に、近くに住む人が気軽に、中には一生懸命に、ピアノを弾く人それぞれの様子や思いを知ることでもできた。【資料4】は放送された演奏のラインナップである。

ストリートピアノが多いもうひとつのまち・神戸市には、ジャズ喫茶を産んだ日本独自のジャズが息づいている。さらに、震災が起きた年に作られ歌い継がれている復興ソング《しあわせ運べるように》や、震災発生6日後に32年ぶりの共演を果たした小澤征爾とNHK交響楽団のチャリティーコンサートなど、阪神・淡路大震災を機に復興し復活した音楽があり、ストリートピアノの設置もそのひとつであることがわかった。現在も文化や芸術の面から市を豊かにしようとする事業が行われるなど、常に様々な音楽が神戸市とそこに住む人に寄り添っている。

以上の調査や分析を経て考えられるストリートピアノの役割とは、ひとつはピアノを通してコミュニケーションを育むことである。中には自己表現だけのためにストリートピアノを弾く人もいると思われるが、聴く人がいることにより弾く人との間にやりとりが生まれる。人が集えば地域の活性化も期待され、実際にそれを設置理由に挙げる管理者もいた。震災後にストリートピアノが置かれたというエピソードも、ピアノを通してコミュニケーションや心の拠り所を作ろうとしたためとも言えるだろう。役割のもうひとつは、ストリートピアノはピアノや音楽を身近で日常的な存在にすることである。Play Me, I'm Yours や Love Piano プロジェクトの事業はその先駆けであった。YouTubeで活躍するピアニストのように、いろいろな演奏曲目を用意し、連弾や他の楽器とのアンサンブルなど様々なスタイルで弾くならば、エンターテインメント性も加わる。よって、弾く人も聴く人もストリートピアノにより魅了され、いっそう音楽に思いを向けていくだろう。そして、ストリートピアノがコミュニケーションを育み、ピアノや音楽を身近な存在にしてくれるのは、誰もが弾き、誰もが聴くことのできる平等で開かれた空間から生まれていることにはほかならない。

一方で、人とピアノ、あるいは人と音楽との距離を密にしてくれるストリートピアノが、コロナ禍以降、その演奏機会が制限され停止されたのも事実である。対して、ストリートピアノが広まったのは、コロナ禍により、ライブではなく配信やSNSによってピアノ演奏が提供されたためでもある。今回の研究ではコロナ禍とストリートピアノの関わりを深く追わなかったが、この相反する2つは挙げておきたい。

今後、コロナ禍をも糧にして、ストリートピアノは分布も勢力も変わり、このピアノに触れる機会もより工夫されていくのではないだろうか。すでに、ストリートピアノの設置場所は駅や空港からショッピングモールなどの商業施設へと移っている。神戸市では、芸術や文化の取り組みの中で、ストリートピアノへの注力と一緒にコロナ禍における支援に言及している。ストリートピアノは、どのように展開し、どのように変化するのか、その時どのような役割が求められているのか、見守りたい。

おわりに

学生の研究作業を通して気付いた点と今後の希望を述べる。

まずは報告文のバランスについてである。今回の報告文は、執筆担当各自のレイアウトを擦り合わせて1ページを41文字×38行とし、表紙と目次を含めた総ページ数は45ページ、そのうち本文は23ページ、付属資料は19ページとなった。付属資料の中身は動画へのコメントである。このように付属資料が総ページの半分近くを占めたのは資料を集めた充足感の表れとも受け取れるが、その中身によっては本文とのバランスが良いとは言えないこともある。資料の掲載が必要かどうかを見極め、整理することや元の資料を載せることで安心して自分の文章で伝えることを、もっと学ばせる必要があったと省みている。

そこで考えたいのが音楽の文章化である。学生は日頃、音楽を演奏で表現しており、文章で表現することは少

ないかもしれない。ならば、どうやって文章の表現力を身に付けさせようか、書くためには文章を読み解くことも必要と思い、ゼミでは比較的読みやすい論文に取り組む時間も設けているのだが、関心が向くのであれば小説でもいい、本を読むことを学生に促していきたい。

また、資料や参考文献を選ぶ際にインターネットが多く使われていることも、毎年度、そしてこの年度でも気になる点であった。コロナ禍にあり、ストリートピアノもその環境も変化したため、実際にピアノが置いてある場所に出向くことも難しかったのは確かだが、【資料5】に示した章ごとの参考文献と資料からもわかるように、本研究で使用した文献と資料の多くはネットから得ており、そのほとんどが学生の選択である。そこで学生も教員も備えていかなければならないのが、ネットに対するリテラシーと、より適切な情報を選択する力であろう。そしてやはり、いろいろな本に触れて欲しいと思う。

最後に、次年度へのテーマの継続という、兼ねてより持っていた教員の希望を挙げたい。本稿の「はじめに」でも述べたように、音楽教育研究ゼミでは、4年生の卒業研究を見据えて、研究に関わる一連の作業を3年生のうちに経験させようと試みているが、題材や目的については資料が豊富にあることや取り組み易さを優先に検討しているため、年度ごとに変えているのが現状である。つまり、研究のスキルは学生次第で積み重ねられるが、3年生全体で取り組んだ題材が次の3年生に引き継がれ、積み重なっていくことは今のところ無い。そこでテーマを、例えて言うならストリートピアノの役割を考察する目的も包み込むような豊かなテーマを与えたいのである。深めたり積み重ねたりするのも研究の醍醐味である。それを学生に経験させるためにも、前年度の研究を参照し、かつ次年度への継続が期待されるテーマが当年度に設定できればと、これからの音楽教育研究ゼミに向けて考えていきたい。

【資料1】ハラミちゃんがストリートピアノを演奏している YouTube 動画に寄せられたコメントの一部
動画のタイトルと URL

「【街ピアノ】偶然通った女の子がこの後...🤔!?!? www「いとしのエリー」をじっくり弾いてみたら...【サザンオールスターズ】【ストリートピアノ】」

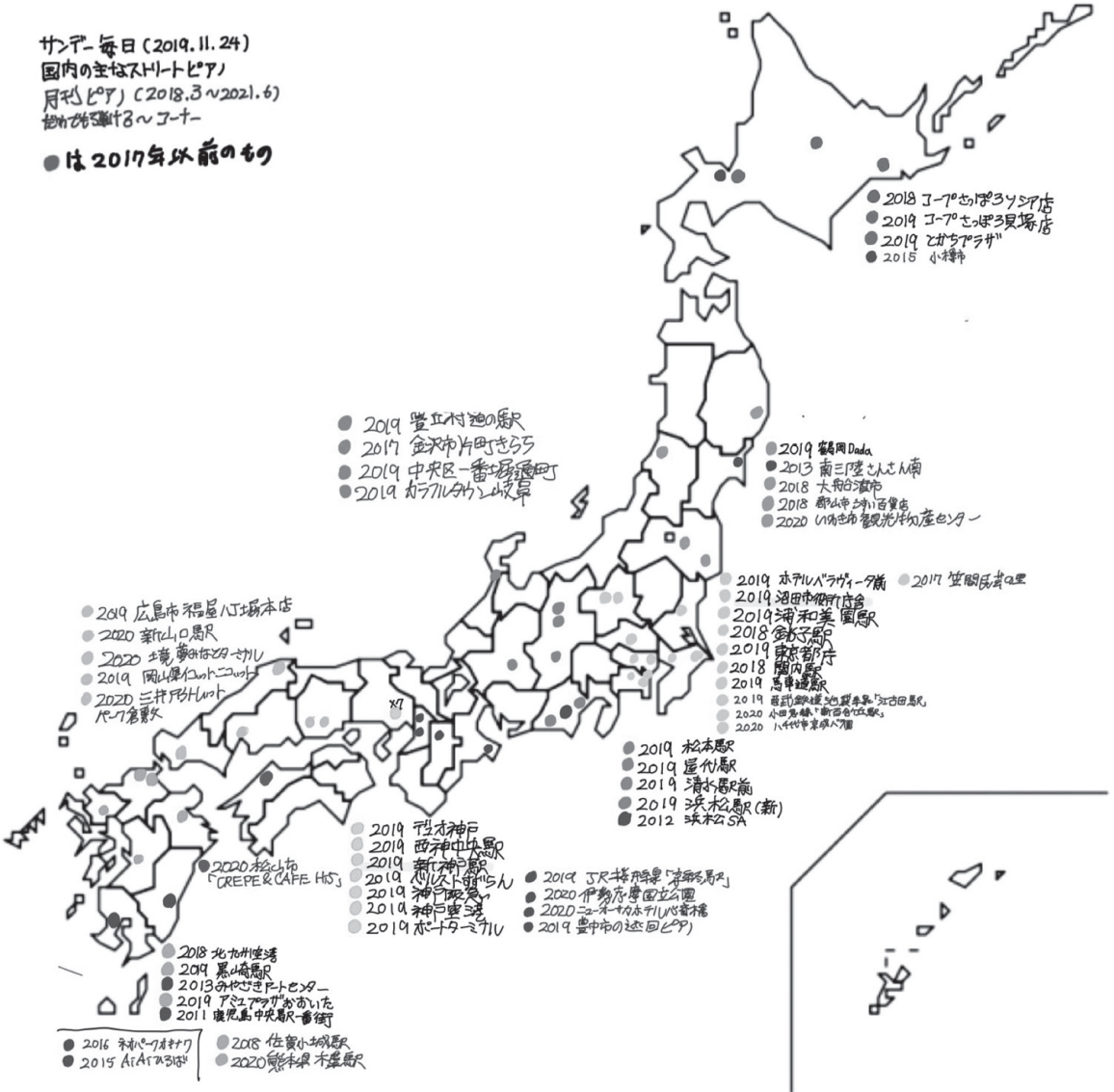
https://www.youtube.com/watch?v=3PXFKM9n_b4 (動画投稿日2021年9月30日、閲覧日2021年10月6日)。

コメント

1. サザンの愛しのエリーは青春時代を思い出して大好きな曲の1曲です。ハラミちゃんの弾くピアノアレンジが何ともいえなくとも素敵です。やっぱりストリートピアノって良いですね😊
2. いつでも戻って来れる居場所の様な演奏だなあ。心に沁み渡る。
3. ハラミちゃんの演奏に合わせて、歌っちゃった♪😊
4. 偶然通りかかった人たちが羨ましい。じっくりした曲の演奏も素敵です。
5. ハラミちゃんが弾く穏やかな音色が心地良すぎて嫌なことも忘れて行く〜😊 ありがとうございます🙏🙏いつも最高です♪😊
6. どうしてこんなに優しい音になるんだろう😊大好きなサザンの大好きな曲を大好きなハラミちゃんの演奏で聴けて嬉しい😊
7. 沁みる...ふぞろいの林檎たちを思い出しますね🍏😊ほんと優しい音色🎵ありがとうございます😊
8. じっくり、優しい演奏が曲に合ってますね。桑田さんの歌声もハラミちゃんの演奏も、力強い時もあれば、愛おしい想いが溢れるような淡い感情を出したり😊音楽は心を表現出来ますね😊
9. ハラミちゃんの想いが懐かしいメロディと共に心に響く。桑田佳祐さんが歌っている様にも聴こえてくる美しいピアノの音色でしたね。
10. いとしのエリー😊切ない曲けど好き♥ハラミちゃんのバラードやっぱり(*ω(ω・o)))大スキ♡
11. ハラミちゃんのバラードはホント刺さるのよね。ピアノから歌声が聞こえてくるんだ。😊
12. このメロディーが流れると一瞬で若き頃にタイムスリップします🙌懐かしくも切ない思い出の曲🎵ハラミちゃん 素敵な演奏をありがとう🙏
13. 切なくて胸が苦しくなるような😊😊😊世代と真ん中で青春時代の曲です。ハラミちゃんの演奏で聴けるなんて感涙×2😊😊😊
14. 桑田さんが歌ういとしのエリーは沁みるけど、ハラミちゃんが弾くいとしのエリーも沁みるな優しい音色でほっこり😊
15. この曲めっちゃ好き〜!!ハラミちゃんの音色ってまた違う雰囲気させてくれるから凄いやね〜😊毎回ホント楽しみにしております(o^o)♪
16. いとしのエリー、めっちゃ好きな曲。ハラミちゃんが奏でると、桑田さんの声が聴こえてくる。泣けてきちゃったよ〜😊素敵だあ🙌🙌🙌🙌
17. 私の母が私の為になって歌ってくれる歌なのでなんかハラミちゃんからもプレゼントされたみたいで嬉しい😊
18. ハラミちゃんありがとう😊サザンのいとしのエリー聴いてすごい癒された😊
19. ハラミちゃんが弾く🎵🎵「いとしのエリー」はやっぱり沁みるね😊
20. 「いとしのエリー」は青春の思い出が沢山詰まった曲です。ハラミちゃんの弾くこの曲は格別、いろいろな事が甦ってきます。いつかストピで出会いたい。

【資料2】 図・日本のストリートピアノの分布図

(報告文の掲載ではポイントごとに色を付け、設置された場所や年が色でもわかるようにしている。)



【資料3】表・日本におけるストリートピアノ（2021年6月調べ）

都道府県	設置場所	ピアノの呼称	ピアノの種類	設置理由、他
1 北海道	コープさっぽろソシア店	「誰でもピアノ」	グランドピアノ（ヤマハ）	「寛げるような空間」にするため。
2	コープさっぽろ貝塚店	「だれでもピアノ」	アップライトピアノ（ヤマハ）	誰でも自由に演奏が出来る空間にするため。
3	とかちプラザ		グランドピアノ	「販売会や展示会、様々なまつりやイベント」、「自由に利用できる交流の場」にするため。
4	小樽サンモール一番商店街			
5 岩手県	大船渡市 防災観光交流センター			宮城県では3台目。鹿児島から全国にピアノを贈る活動を続けている鹿児島まち自慢快発考舎『ストリートピアノ JAPAN』からの寄贈。ピアノの前板上部に"Play Me, I Your's"と書かれている。
6 宮城県	南三陸さんさん			鹿児島から宮城へ、東日本大震災後に運ばれた。
7 山形県	鶴岡Dada		アップライトピアノ（ヤマハ）	訪れる方々といっしょに変化し続ける空間をつくっていくため。
8 福島県	いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」			いわき市初。フラ柄。
9	郡山市 うすい百貨店	「ドリームピアノ」		郡山市は2008年に「音楽都市」を宣言。
10 茨城県	笠間民芸の里			
11 群馬県	ホテルペラヴィータ前		アップライトピアノ（カワイ KU-1D SPECIAL）	ピアノに装飾が施されている。素敵な出会いのスポットにするため設置。
12	沼田市役所庁舎1階		アップライトピアノ（カワイ No.K35）	
13 埼玉県	浦和美園駅		アップライトピアノ（カワイ BL-12）	「キャプテン翼」のステンドグラス前に設置されている。
14 千葉県	銚子駅		アップライトピアノ（ヤマハ）	他楽器持ち込みセッション可。
15	八千代市 京成バラ園			地元の園児とコラボしたバラのデコレーション。
16 東京都	東京都庁45階南展望室	「おもいでピアノ」	グランドピアノ（ヤマハ G3A）	国内外からのお客様同士が音楽を通じた交流促進を図ることにより、都庁舎に訪れるたくさんの方々への「おもてなし」のひとつとするため。草間彌生デザイン。ピアノ専属係員常駐。ピアノは都民からの寄贈。
17	西武鉄道池袋線「江古田駅」			「江古田キャンパスプロジェクト」の一環。
18 神奈川県	関内駅「マリナード地下街」		アップライトピアノ（カワイ US-65）	
19	馬車道駅		アップライトピアノ（カワイ US-65）	来年の市庁舎移転で同地区の活気が失われることを懸念市担当者の提案。
20	小田急線「新百合ヶ丘駅」直結小田急マルシェ新百合ヶ丘2F	「Shinyuri Station Piano (SSP)」		川崎市初。「芸術・文化のまち」づくりを進める中でのピアノ設置。第1期は同駅コンコース、こちらは第2期。音による周辺への影響が大きいことがわかり設置終了。
21 新潟県	一番堀通町のカミフル・ピアノ		アップライトピアノ（ヤマハ）	
22 石川県	金沢市片町きらら広場			
23 長野県	道の駅「南信州とよおかマルシェ」			
24	松本駅	「楽都まつもと夢ピアノ」	グランドピアノ（ヤマハ）	一般社団法人「まつもと夢ピアノ」が地元の音楽愛好家のみならず、楽都松本へ来た人々に自由にピアノを弾いてもらうことが目的。
25	屋代駅		アップライトピアノ（LESTER）	1曲演奏した方にはうまい棒1本贈呈。
26 岐阜県	商業タウンカラフル岐阜2F	「Gifuピアノ」	アップライトピアノ（ヤマハ）	ピアノは岐阜市内の商業施設やショッピングモールを移動する。
27 静岡県	清水駅前		アップライトピアノ（MONTRE）	「まちは劇場」の象徴的な事業として位置づけ、誰でも、自由に、気軽に弾いてもらい、「音楽に親しむ場」、「表現の場」として、まちに活気を生み出してくれるものにしていくため。
28	浜松駅		グランドピアノ カワイ SK-7 グランドピアノ カワイ クリスタルピアノ CR-40 ヤマハ CFXなど	浜松の地元企業や土地をアピールするため。
29	新東名高速浜松SA		電子ピアノ（ローランド）	「音楽のまち、浜松」ならではの様々な展示やイベントでドライバーや旅行者をおもてなしするため。
30 三重県	伊勢志摩国立公園パールロード鳥羽展望台	「絶景ピアノ」	グランドピアノ（ヤマハ）	三重県初。都庁の「おもいでピアノ」の名前をいいなと思ひ名付けた。
31 大阪府	ニューオーサカホテル心齋橋メランテプラザ	「フリーピアノ」	グランドピアノ（ヤマハ）	食事と音楽のコラボ企画「18世紀の貴族の晩餐会」に合わせて。コロナ禍で厳しい中でもSNSを通してピアノを知り、弾きにくる人も多い。
32	豊中市 巡回ピアノ			豊中市は「音楽のあるふるまちなち」としてさまざまな取り組みを推進。行き場を失った市有施設のピアノの再活用プロジェクトが一昨年立ち上がる。2台のピアノが巡回。

33	兵庫県	デュオ神戸		アップライトピアノ（ヤマハ）	街に賑わいと潤いをもたらして、人との交流を促すため。
34		西神中央駅		グランドピアノ（ヤマハ）	多くの人に自由に弾いてもらうため設置。名谷あおぞら幼稚園から寄付。
35		新神戸駅		アップライトピアノ（ヤマハ）	多くの人に自由に弾いてもらうため。
36		ベルスト鈴蘭台		アップライトピアノ（ヤマハ）	住民が参加できるようなイベント開催のきっかけになるため。
37		神戸阪急			
38		神戸空港		アップライトピアノ（ヤマハ）	音楽による空港のにぎわい創出。
39		メトロ神戸中央広場			
40		ポートターミナル		アップライトピアノ（ヤマハ）	音楽によるにぎわい創出。
41		神戸市役所			
42	奈良県	JR桜井線（万葉まほろば線）京終駅			駅は無人駅。イベントで使う白いピアノが同年3月に設置。誰でも弾けるピアノはSNSで寄付を募った。
43	鳥取県	境夢みなとターミナル		ベヒシュタイン	寄贈は鳥取県出雲市にある株式会社クラヴィアー（日本ピアノ調律工房）。
44	岡山県	イコットニコット	「イコニコストリートピアノ」		岡山県初のストリートピアノ、テレビせとうち事業部と商業施設イコットニコットとのコラボレーションにより設置。YoutubeピアニストによるSNSアップも。
45		三井アウトレットパーク倉敷（MOP倉敷）			ストリートピアノはコロナ禍で減った賑わいの創出の一助になっている。「ピアノを1台置いただけで、アウトレットモール自体に活気が生まれました。」
46	広島県	福山八丁堀本屋上SORALA			
47	山口県	新山口駅	「駅ピアノ@新山口」		パリの街角にあるストリートピアノの話を聞き、置きたいと思うように。横浜などを見て設置状況を確認。
48	愛媛県	「CREPE&CAFE HIS（ハイファイブ）」			ピアノの寄贈もデザインも店のInstagramで募集。
49	福岡県	北九州空港出発ロビー		アップライトピアノ（ヤマハ）	コンサートやイベントを積極的に行う。
50		黒崎駅		アップライトピアノ（ヤマハ）	SDGsを考慮している。
51	佐賀県	小城駅			
52	宮崎県	みやざきアートセンター		アップライトピアノ（ヤマハ）	中心市街地にあるこの広場を、行き交う人々が集うことのできる新たなスポットにしようと、地元商店街や大学、NPO法人の関係者らが結成した実行委員会が、廃棄されていたピアノを蘇らせ、設置。
53	熊本県	JR鹿児島本線木葉駅の駅ピアノ	「このは」		コロナの影響で閉店した店のピアノを地域おこしとして有効活用しようと、ストリートピアノを弾いたことのある経験者が先導した。
54	大分県	アミュプラザおおい	「アミュピアノ」	アップライトピアノ（クロイツェル）	より多くの方が芸術に触れる機会を作るため。多くのお客さまに弾いていただくことで、芸術を発信しながら大分の“まちなか”の賑わいを創出する。
55	鹿児島県	鹿児島中央駅一番街		アップライトピアノ	日本初のストリートピアノ。家庭などで使われなくなった古いピアノを調律して色鮮やかに装飾し、ピアノに命を蘇らせて屋外で演奏。ピアノの第2の生き方を商店街・地域の活性化に。「おもてなし」
56		奄美市 AIAIひろば			鹿児島から全国にピアノを贈る活動を続けている「鹿児島まち自慢快発考舎」の故・大坪徹の持ち込み企画。
57	沖縄県	ネオパークおきなわ			

【資料4】表・NHK テレビ『駅ピアノ・空港ピアノ・街角ピアノ』から「街角ピアノ浜松」（2021年6月12日放送）での演奏ラインナップ

職業／性別	年齢	弾いた曲	住まい／エピソード
高速バス運転手／男	40	マリーゴールド	／休日におしゃれして弾くことが楽しみ。
保育士／女	25	栄光の架け橋	愛知県／デート中に立ち寄った。
元保育士／女		ピアノ・マン	埼玉県／夫婦で旅行中に立ち寄った。ピアノは生活の一部。
高校生2人／男女		恋（連弾）	浜松／音楽教室で出会った。コロナで発表会が中止になり街角ピアノで演奏。
家電販売員／男	53	JEWEL	／浜崎あゆみのファンで、この曲を弾くために43歳から始めた。毎日欠かさず練習。
牧場経営／女	66	旅の気分を即興	群馬県／夫婦で旅行中に立ち寄った。

／女	43	幻想即興曲	大阪府／夫婦で旅行中に立ち寄った。テレビで幻想即興曲を聴き弾いてみたいと思い小4で始める。高校生でやめたが20年ぶりに再開。
／男・ペルー人	29	デスパシート (弾き歌い)	浜松／8年前から始める。弾いた曲は母の好きな曲。
中学生／女	13	CITRUS	浜松／6歳から始め、毎日練習。将来の夢は音楽関係の仕事に就くこと。
ピアノ講師／女	49	革命(ショパン)	浜松／15歳で全国大会に出場、音大を卒業後26歳で結婚、ピアノ教室を開く。子育てが終わったら演奏活動をしたいと思い準備している。
リング販売員、 ジャズピアニスト／男	49	演奏者の即興	東京都／音大卒業後、バーでジャズピアノを演奏。生活費が足りないため昼はリング販売員として働く。2つの職は一期一会で即興性のある点が共通している。
高校のバンド仲間2 人／どちらも女	18	丸ノ内サディス ティック (カホンとピアノ)	静岡市／イギリスのドラムの学校と日本の音大へそれぞれ進学。音楽は出会いであり、苦しくも表現を身に付けるもの。
会社員／男	53	台風 (piano jack)	浜松／3年前に再開。今は会社の吹奏楽団に入り音楽を楽しんでいる。
会社員／男	56	パリは燃えてい るか	浜松／近所。趣味を持ちたいと思い45歳の時にピアノを始める。自宅にグランドピアノを置くのが夢。ただでグランドピアノが弾けるため通っている。
会社員／女	44	タイムアフタータ イム	浜松／離婚を経験。離れ離れの子どもたちの目に留まるといいなと思い弾いている様子をSNSに載せている。ピアノはかけがえのないもの。
大学生／男		TAKUMI	／旅行中に立ち寄った。6歳から始める。母は歌手で父と兄がピアニスト。自分は勉強とサッカーに打ち込んできたが自分のやりたいことに悩み大学を休学。演奏会で自分の気持ちを確かめる。試奏のために立ち寄る。
トラック運転手／男	62	TSUNAMI	／名古屋から東京への移動中。ピアノを始めて6ヶ月目。吃音持ちのためにいじめを受け自殺を考えたことも。転職を繰り返すが今の職場に安定。自分の思いを表現できるところがピアノの好きなおとこ。人生を楽しくさせてくれる。
郵便局勤務／男	57	ノクターン第二番 (ショパン)	浜松／20歳からピアノを始める。浜松の音楽文化に触れて生活したいと思い浜松に移住。住み始めて31年目。

【資料5】 章ごとの参考文献と資料（カッコ内は web サイトの最終閲覧年月日）

はじめに

「誰でも弾ける愛しのストリートピアノ」、『月刊ピアノ』2018年3月号連載開始、2020年4月号から7月号まで休載。（本研究では2021年6月号までの掲載を対象とした。）

「街角のピアノマンたち」、『サンデー毎日』98（60）、2018年11月24日、122-124頁。

「YouTube Pianist」、『ショパン』No.441、2020年5月号、18-29頁。

「YouTube Pianist 特集第2弾!」、『ショパン』No.448、2020年5月号、13-27頁。

だれでもピアノ <https://pianomitsuketa.com>（2021年12月1日）

第1章

第1節

Street Pianos: Play Me, I'm Yours <http://www.streetpianos.com/>（2021年12月1日）（研究報告文ではこの節の執筆を担当した学生が英語の原文を日本語に訳し引用した。）

『Play Me, I'm Yours Kunitachi 2018 Report 開催報告』

<http://kunitachibiennale.jp/bien2018/wp-content/uploads/2018/06/Project-Report-PMIY2018-web.pdf>（同上）

「ルーク・ジェラム インタビュー | “PMIYの主役は一般の人たち”」、『Play Me, I'm Yours Kunitachi 2018』

<https://streetpianoskunitachi.tokyo/post/172290700214/lukeinterview>（同上）

第2節

仲田舞衣「【誰でも弾ける!!】全国各地で話題沸騰のストリートピアノ・ムーブメント【# LovePianoYamaha】」、『音と遊ぼう My sound マガジン』 <https://mag.mysound.jp/post/483> (2021年7月29日)

ノリコ・ニョキニョキ「映画公開記念!『Love Piano～「蜜蜂と遠雷」ver.～』が登場」、『COSMUSICA』 <https://cosmusica.net/?p=12177> (2021年10月4日)

「インスタ映えとは? 写真の撮り方のコツやスポットの選び方を紹介」、『家電小ネタ帳』 <https://www.nojima.co.jp/support/koneta/38900/> (同上)

「『現代用語の基礎知識』選 2017ユーキャン新語・流行語大賞トップ10発表!『ことばの選挙』による読者賞も発表に」 https://www.ucan.co.jp/company/news/1200461_3482.html (同上)

「ABOUT Love Piano プロジェクトとは」、『YAMAHA』

<https://jp.yamaha.com/products/contents/pianos/lovepiano/about.html> (2021年10月6日)

第2章**第1節**

角野隼斗 Hayato Sumino Official Website <https://hayatosum.com/> (2021年6月29日)

同上 「ストリートピアノ文化が長続きするために」、角野隼斗のnote、2020年2月19日20:27掲載 <https://note.com/880hz/n/n940933672dea> (同上)

仲田舞衣「【誰でも自由に弾ける!】大人気 YouTuber よみい×ストリートピアノ【Love Piano】」、『音と遊ぼう My sound マガジン』、2021年1月27日 <https://mag.mysound.jp/post/681> (2021年6月27日)

ハラミちゃん「自分自身も成長しつつ、ピアノが楽しい楽器であることを伝えられたら」、『TV LIFE』、2020年6月29日 <https://www.tvlife.jp/pickup/299958> (2021年6月29日)

よみいオフィシャルサイト <https://yomii-piano.com/> (同上)

第2節

「人気ユーチューバーが集結! 川谷絵音のイチオシは?」、クラシック TV『YouTube と音楽～インスト最前線～』 <https://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=29787> (2021年11月3日)

第3章**第1節**

「誰でも弾ける愛しのストリートピアノ」

「街角のピアノマンたち」

だれでもピアノ

上記の出典およびサイトの URL と最終閲覧年月日は、「はじめに」の参考文献と資料に同じ。

第2節

絵森隆一「ヤマハ株式会社静岡企画推進室地域文化貢献担当主調査2005. 7.20 企業と地域文化: ヤマハと浜松市の事例をもとに」、『文化経済学4 (4)』、2005、文化経済学会、69-76頁。

富田晋司「『ピアノ製造アーカイブに関する研究』報告: 浜松地域における中小ピアノ製造業者の展開と『楽器・ピアノの街』の情報発信」、『静岡文化芸術大学研究網要』VOL.14、2013、135-142頁。

「音楽教育事業」、ヤマハ音楽振興会 <https://www.yamaha-mf.or.jp/cont2.html> (2021年11月9日)

「『第29回 ハママツ・ジャズ・ウィーク』の開催について」、ヤマハ株式会社、2021年6月22日ニュースリリース https://www.yamaha.com/ja/news_release/2021/21062201/ (同上)

「ヤマハブランドの誕生」、ヤマハ株式会社 企業情報 ブランドと歴史

<https://www.yamaha.com/ja/about/history/brand/> (同上)

第3節

服部良一「ジャズの精神」、『少女歌劇』1939年6月号、28-29頁(細川周平「『日本的ジャズ』をめぐって『日本研究』第35巻、2007年、451-467頁より引用)。

安田英俊「神戸と同じ港町がジャズの発祥の地です」、『Jazz Town Kobe』<http://jazztownkobe.jp/history/yasuda/> (2021年10月13日)

神戸市公式サイトから

神戸スポーツ局「令和3年度 事業概要」

<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/25439/r3jigyougaiyou.pdf> (2021年11月10日)

神戸市文化スポーツ局(予算特別委員会資料)「令和3年度予算説明書」

<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/40676/20210310yotoku3.pdf> (同上)

「神戸市文化芸術推進ビジョン(概要版)」

<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/42494/visionsummaryver2.pdf> (2021年11月1日)

しあわせ運べるように公式サイト <http://www.shiawasehakoberuyouni.jp/index.html> (2021年10月13日)

杉原千畝記念館公式サイト <http://www.sugihara-museum.jp/about/> (2021年11月10日)

「特集 近代の原点を今に伝える港街への旅 神戸：文明開化と国際都市神戸の誕生」、『Blue Signal 西日本の美しい風土』March 2009 vol.123

https://www.westjr.co.jp/company/info/issue/bsignal/09_vol_123/feature01.html (同上)